



ピアステーション通信

24年12月
第3号

挨拶

皆様、こんにちは。NPO法人ACT-R（アクトール）の米田と申します。

すっかり季節は冬となり、秋は本当に短いなあ、としみじみ思う今日この頃です。

今号は、この事業によってもたらされるであろう効果について考えられること、我々として力を入れたいことについてお話しさせていただきます。それでは、皆様ご自愛くださり、素敵なクリスマス→年末→年越しをお過ごし下さい。



本事業の実施効果（期待していること）

- ・ピアサポートの概念が明確になることで、ピアサポーター個々人の立場や関わり方が明確になるため、負担感が軽減される。
- ・活動に必要なフォロー体制が確立されるため、ピアサポーターへの支援が行われ、安定して活動を継続することができる。
- ・上記2点により、ピアサポーターのマンパワーが確保され相談者が相談しやすい環境が整う。
- ・構築された理論を基にピアサポーターの養成講座を実施、また養成されたピアサポーターが活躍できる事業所（障害者自立支援法に基づく相談支援や居宅介護、他事業所への人材派遣、カウンセリングルーム）を開設することができる。

これからの予定 **どなたでも参加OK！お待ちしております！**

★12/19（水） 「ピース」 13:30～15:30

『発達障害とピアサポート ～アスペルガー障害支援の現場から～』

講師：佐藤賢治氏（横浜市地域活動支援センターオフィスウィング所長・NPO法人レジス理事）

会費：500円（ワンドリンク） 場所：カフェピア（レジネス内）（中原区木月3-59-22）

アスペルガー障害専門事業所を先駆的に立ち上げ、運営してきた佐藤氏とレジネスピアサポーター鈴木を中心に、発達障害支援からピアサポートを学ぶ気軽なトークセッションになる予感です！



詳細チラシレジネスHP(イベントページ)からダウンロードできます

【URL：<http://resnes.web.fc2.com/event.html> レジネスで検索】

第3回ピース(スタッフ研修)の報告 参加者15名でした



テーマ:「浦河べてるの家の経験からピアサポートについて考える」

講師 : 向谷地 宣明氏(浦河べてるの家)

11月21日(木)の13時半過ぎ~16時過ぎ迄、レジネス内のコミュニティカフェ・ピアにて、第3回「ピース」が開催されました。

第3回目の「ピース」は、北海道浦河べてるの家より向谷地氏を招き、べてるでのピアサポートの実践やべてるならではの「自分の助け方」等を伺い、皆で学びました。

べてるの家は、1984年に設立された北海道浦河町にある精神障害等をかかえた当事者の地域活動拠点です。社会福祉法人、有限会社、株式会社、NPOの活動があり総体して「べてる」と呼ばれています。生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を持っていて、100名以上の当事者が地域で暮らしています。べてるの家は1978年に回復者クラブどんぐりの会の有志メンバー数名が浦河教会の旧会堂を拠点として活動をはじめたのがはじまりです。

浦河のピアサポートの仕事としては、通院サポート、生活サポート、就労サポート、退院サポートがあります。ピア(仲間、同僚)サポートをする上で大切なことは、互いに自分のことを語り合う、「弱さの情報公開、助けられるピアサポーター」、当事者ならではの共感と受容、べてる式当事者研究、SSTで自分の助け方を見つけることです。

【参考資料】

講座の中で向谷地さんと参加者と、川崎版の地域に根差したピアサポートにはどんなものがあるかを、考えましたのでご紹介します!



川崎市中原区にピアサポートのどんなニーズがあるか



	ニーズ	アイディア
頭 在 的	利用者サポート	相談支援を予約制にする
	訪問サポート	訪問(二人一組のチームで)一病院、自宅
	相談支援(体面、電話)	農業をやる
潜 在	生活(暮らし、仕事、食)支援	自助グループをつくる
	退院支援	ファミリーサポートとのコラボ

編集後記

木枯らしの冷たさが身にしみる季節となりましたが、皆さん如何お過ごしでしょうか?既に風邪が流行り始めていますよね。しっかり休養と栄養をとって身を守りましょう。



レジネスでは、皆さんのお越しをお待ちしています。(自家焙煎の“オリジナル”ピアブレンド珈琲で温まりましょう!) kayoko でした。

発行元

NPO 法人 ACT-R

〒213-0034

川崎市高津区上作延 782 - B101

TEL : 070-6527-4303

E-Mail : t.yoneda@act-r.org